

女性会計士20人 人生の中間決算書

女性会計士 20人 人生の 中間決算書

「おせっかいな先輩より。キャリアマ・家庭・これから」



日本公認会計士協会 近畿会

日本公認会計士協会 近畿会

女性会計士20人 人生の中間決算書

はじめに

公認会計士制度が発足してから、平成20年（2008）で60年になりました。60年という長い年月の中で、戦後から、経済成長期、またバブル経済を経て、日本経済や企業の経営環境は大きく変わりました。女性の社会進出についても、雇用機会均等法の施行もあり、年々進んでいます。公認会計士をとりまく環境も著しく変化しました。

特に最近では、公認会計士試験制度の改定により、受験者数、合格率、合格者数が急増し、会員数は平成12年（2000）の約1万6千人から平成21年（2009）12月時点で約2万8千人と、倍近くも増えました。それに比例するように、平成20年では3600人超にもなる公認会計士試験合格者のうち女性が600人超と約2割近くを占め、女性の公認会計士業界への更なる進出と活躍に大いに期待がかけられる状況となりました。しかし、平成21年には公認会計士合格者の就職難が新聞に取り上げられるようになり、金融庁による公認会計士試験制度の見直し論にまで発展しています。

このような状況の中、私たち日本公認会計士協会 近畿会 女性会計士委員会 出版プロジェクト（以下「女性会計士委員会」）では、働く女性の一人として自らの、また、後にくみみなさんのキャリアビジョンについて考えてきました。

女性が公認会計士という資格や経験を得て、多様な社会の中でどのような

活躍、どのような社会貢献ができるのかを示したい、という熱い思いを持ったメンバーが集まっています。

過去に女性会計士委員会では、公認会計士制度発足50周年を記念して、平成10年（1998）に会員向けに『翔け 日本の女性会計士のあゆみ』を発刊しました。私たちの仕事内容というのはなかなか公認会計士以外の方にご理解いただくのは難しいことが多いのですが、今回は60周年を記念し、公認会計士以外の方々にも公認会計士の業界に目を向けてもらうために、この出版物を発刊させていただくこととしました。どこからでも興味を持った部分から読めるよう、また、読みやすく面白い内容とするよう、極力工夫させていただきましたつもりです。

取り上げさせていただいた方々の働き方は様々ですが、いずれも自分らしくキャリアを構築されてきた方ばかりです。これをお読みになられた方々が、迷えるキャリアの指針に役立てていただければ、また、一人でも多くの方が公認会計士を目指していただければ大変うれしく思います。

公認会計士ってどうすればなれる？ どんな仕事？

公認会計士の試験制度は以下の通りです（2010年5月現在。公認会計士・監査審査会及び日本公認会計士協会のホームページより抜粋）。

公認会計士試験は、公認会計士になろうとする方々に必要な学識及びその応用能力等を有するかどうかを判定することを目的として、短答式（マークシート方式）及び論文式による筆記の方法により行われます。

短答式試験は、財務会計論、管理会計論、監査論及び企業法について行い、論文式試験は、短答式試験に合格した者及び免除された者について、会計学、監査論、企業法、租税法及び選択科目（経営学、経済学、民法、統計学のうち受験者があらかじめ選択する1科目）について行われます。なお、受験資格の制限はありません。

また、論文式試験合格後、公認会計士として登録するためには、2年以上の業務補助等の実務経験や実務補習所での研修及び修了考査が必要です。

公認会計士の活躍のフィールドとしては、日本公認会計士協会のホームページでは、仕事の魅力として、「監査法人でグローバルに活躍」「コンサルティング」「企業内会計士」「株式公開支援」の事例が掲載されています（2010

年5月現在)が、大きく分けて、監査業務と非監査業務に二分されます。

監査業務とは、クライアントが公表する財務諸表(決算書)の内容が正しいかどうかと第三者の立場から公正にチェックする業務です。対象となるクライアントは、日本で約3700社ある上場会社に代表される一般事業会社、他、学校法人や病院、国や地方公共団体など様々です。

話題となったNHKのドラマ「監査法人」では金融機関(銀行)、製造業(メーカー)、ソフトウェア販売業などが取り上げられていたのを記憶されている方もいらっしゃるでしょう。具体的な作業としては、クライアントが作成した財務諸表の数値が間違っていないか、粉飾決算でないかを確認するために、監査リスク評価のための社長との面談、帳簿に記された会計記録のチェック、棚卸の立会、現金等の実査等を行います。

監査業務は個人の公認会計士でも行うことは可能ですが、監査リスクの高まりにより、監査業務に関与している公認会計士のほとんどは監査法人という組織に属しています。監査法人の規模は小さきままですが、世界的にはビッグ4(アルファベット順=Deloitte Touche Tohmatsu, Ernst&Young, KPMG, PricewaterhouseCoopers)と呼ばれる法人間の寡占状態にあり、日本ではそれぞれ有限責任監査法人トーマツ、新日本有限責任監査法人、有限責任あずさ監査法人、あらた監査法人が提携しています。

監査クライアントが海外に子会社等を有している場合はその在外子会社についても監査が必要で、逆に海外の会社が日本に進出して子会社をつくっている場合は親会社に監査報告を求められることがあるなど、監査業務は企業活動とともにグローバル化する傾向があります。

非監査業務を行う公認会計士は、大きく分けて、組織に属している場合と独立開業している場合に区分されます。組織に属する場合の主な例としては、企業等の経理部門の一員として、財務諸表を作成したり、企業内の内部監査を行ったり、コンサルティング会社に入社し、会計の知識を活かしたコンサルティングをすることもあります。また、独立開業の場合は、税理士登録をして税理士として業務を行ったり、コンサルティング業、セミナー講師や執筆等をしたりが代表的ですが、個人の力量によって得られる報酬や活躍のフィールドは様々です。最近では勝間和代さんが有名で、お名前を見ない日はないくらいメディアで活躍されています。

第1章からは、より具体的に公認会計士の業務について知っていただけるように、身近な先輩公認会計士から大先輩にいたるまで、様々な分野で活躍のみなさまにお話を伺っています。

ぜひ続けてお読みいただければ幸いです。

女性会計士20人 人生の中間決算書

はじめに

公認会計士ってどうすればなれる？ どんな仕事？

第1章 あなたの近くで活躍する先輩公認会計士

皆見 幸（かがやき監査法人パートナー）
不正を行える環境を提供しないこと、それと「こぎれいでいること」が大事。

平林 亮子（平林公認会計士事務所所長 合同会社アールパートナーズ代表）
独立して分かった大切なこと。「決断前の慎重さ」より「決断後の誠実さ」。

山口 綾子（YKK株式会社グループ財務・経理センター経理グループ）
一般企業では他部署との折衝が不可欠、コミュニケーション能力が鍛えられます。

大西 かほる（野崎印刷紙業株式会社管理部経理課）
私の作品、有価証券報告書を世に出した時の感慨は忘れられない。

34

28

21

14

13

5

3

第2章

女性会計士の卵は、こんなことを考えている

41

座談会 くキャリア、結婚、今後のこと…走り始めた私たちの本音について

43

1〜3年目の若手女性会計士8人が語ります

第3章

監査法人というフィールド

55

大手監査法人の人事担当者2人が働く環境について語る

56

「女性が働きやすい職場は一朝一夕には出来ないけど、確実にいい方向に変わってきています」

鹿島 かつおる（新日本有限責任監査法人シニアパートナー）

土岐 祥子（あらた監査法人パートナー）

榎本 尚子（仰星監査法人パートナー）

69

「自分を信じなさい」と言い聞かせながら結婚、転職、出産、合併…の日々を愉しんでいます。

第4章

公認会計士に国境なし

77

後藤 順子（有限責任監査法人トーマツパートナー）

79

「チャンスの神様の前髪」をつかもうと1日で即決したニューヨーク駐在。

重富 由香（Ernst & Young China パートナー）

86

異国で、もがいて努力している間に「自分は何者だろうか？」が消えていきました。

Yasuko (康子) Metcalf (KPMG シカゴ事務所 パートナー) ————— 92
背中を押してくれた「君じゃダメなの？」自分のやり方でトライすることが大事だと。

宮川 明子 (勤業衆信聯合会計事務所 (デロイト台湾) デイレクター) ————— 97
原点は専業主婦。当時の気持ちを越えるものがあるかどうか、自問自答し続けています。

倉本 朋子 (PWC 株式会社 トランザクション サービス部 シニアマネージャー) ————— 104
買収対象企業に短期間でハマること…知的好奇心と体力キープが必須です。

第5章 独立、というもう一つの選択肢 ————— 111

中森 真紀子 (中森公認会計士事務所代表) ————— 112
艦船から小舟への不安と「お客様からの報酬で稼ぐ」嬉しさと。

須藤 実和 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授 経営コンサルタント) ————— 117
ココ・シャネルの言葉が私の座右の銘になっています。

根岸 良子 (中央総合税理士法人・株式会社中央総合ビジネスコンサルティング代表) ————— 124
何の欲も野望もなく、めぐり合わせの縁のお蔭かと。

第6章 新しいフィールドで働く公認会計士 ————— 131

栗原 貴子（大阪府豊中市議会議員）

「身のほど知らず」を乗り越え落ちこぼれ会計士、市会議員に。

132

辻山 栄子（早稲田大学商学部教授）

「本当に役に立つものは、すぐには役に立たない」このメッセージを次世代に伝えていきたい。

140

小森 尚子（英国シェフィールド大学会計学講師）

日本女性は、欧米女性とは違うやり方で社会における会計士の地位を確立してきた。

147

第7章

長く続けてきた末に発見したこと

155

西川 京子（西川公認会計士事務所所長）

もう少し若く会計士になっていたらあと1カ国駐在したかったです。

156

友永 道子（前日本公認会計士協会副会長）

私と会計士業界と、15年間の協会活動を振り返る。

163

おわりに

171

女性会計士委員会委員長 宮口 亜希／前委員長 栗原 貴子

寄稿

40

企業内会計士の可能性と、今後のネットワーク化への試み

ものしりコラム

- ① 大手監査法人の女性ネットワーク 57
- ② 監査法人とは／監査法人の統合 75
- ③ 監査法人における昇進 78
- ④ M&A支援と公認会計士 105
- ⑤ 会計基準の設定主体 141
- ⑥ 日本公認会計士協会とは 164

ちよつとお茶の時間

- その1／会計士と電卓。その切っても切れない関係 76
- その2／公認会計士にはドレスコードがあるか？ 130
- その3／監査にマストの「出張」秘話アレコレ 154
- その4／ドラマ「監査法人」を本職が観たら!? 170

第1章

あなたの近くで活躍する 先輩公認会計士

まずは公認会計士試験に合格した人の「その後の世界」をのぞいてみましょう。

様々なビジネスのシーンで活躍する3人の公認会計士と、
会計士業界の就職氷河期に合格した公認会計士の卵の今をお伝えします。

ママ会計士の皆見さん。働くことに理解を示してくれる家族に感謝しながら、日々前向きに頑張るパワーの一端を紹介してくれます。

皆見 幸



みなみる みゆき

公認会計士・税理士
かがやき監査法人 パートナー
一児（3歳男子）の母

Profile 96年 大学卒業後、中央監査法人名古屋事務所（現有限責任あずさ監査法人）入所／02年 公認会計士第3次試験合格／05年 財務省東海財務局検査総括課へ出向／08年 あずさ監査法人（現有限責任あずさ監査法人）名古屋事務所に復職／09年 かがやき監査法人に入所、パートナーに就任

不正を行える環境を提供しないこと、
それと「こぎれいでいること」が大事。

公認会計士という仕事は、専門性があり仕事の幅が広いため、ある程度の実務経験を積めば、比較的自分のライフワークバランスに適した仕事の選択ができると思います。これから職業を模索している方、特に女性にはお勧めだと思っています。

以下に、私の公認会計士としての経験をいくつか紹介しますので、ご参考まで。

「あたりまえの監査」が大切だと知った 大手監査法人時代

私は、公認会計士第2次試験に合格してすぐに大手監査法人へ勤務しました。あんなに勉強してきたのに、監査の実務では、何が分からないのか分からない!? ほど分からないことだらけ（笑）で泣けました。当時は、残業や休日出勤、長期出張（日本全国飛び回る日々）もとても多く、仕事ザムライしていました。

そんな日々も今になって思うと、監査の基本をじっくり学ぶ貴重な下積み経験であったと思います。大手監査法人では、さまざまな業種、規模、組織風土の会社の会計監査に恵まれていきますし、IPO、海外での駐在勤務、さまざまな機関への出向等仕事の幅も広く、日本だけでなく世界を舞台に公認会計士としての知識や経験を最大限発揮できる場が提供されていると思います。

また、監査を通じて不正事例にいくつも遭遇しましたし、自分も巻き添えになった苦い経験もあります。不適正意見や意見差控^{※1}を出す。なかなかしびれますよ。

会社の存続を左右させるような意思決定を自分の判断で下す。取り扱う金額も多額ですし、社会への影響も大きい。本当に自分の判断に誤りはないか、事実関係を適切に把握できているか、今までお世話になった会社の方の顔が浮かんできたとき、公認会計士とは一体何なのか：真剣に考え、悩み、眠れない日々が続きました。

そんな経験を積んでいくうちに、あたりまえの監査の基本がとても大切であり、その基本をさぼるだけで、不正の行える環境を提供してしまう。不正を起こすこと以上に、不正の起こりうる環境を提供してしまうことの方が悪であり不幸なのだということを実体験を持って学ぶことができました。

※1…不適正意見や意見差控／監査意見の種類は、無限定適正意見、限定付適正意見、不適正意見、意見不表明（以前の意見差控）の4つ。不適正意見は、決算書が虚偽で、財政状況や経営成績を適正に表示していないと判断した場合に表明されることを言う。意見不表明は、会計記録の不十分や監査証拠の入手困難などにより重要な監査手続ができず、その影響が財務諸表に対する意見表明ができないほど重要と判断したときに表明されることを言う。

「国家権力の強大さ」を知った 金融証券検査官時代

金融機関の業務は社会一般だけでなく、国の政治や経済にも影響を与える重要なものですから、金融庁は定期的に金融機関の業務や財産の状況等について検査を実施し、一定の管理下においています。金融検査の結果、重大な不備が認められれば、業務改善命令や業務停止命令が発令されてしまう訳ですから、その国家権力はすごいものです。

私は、財務省東海財務局へ金融証券検査官として勤務していました。何度か金融検査へ出たり、金融検査官向けの会計分野に関する研修講師をしたりしていましたが、大半は、金融検査官が上げてくる金融検査結果に対する審査業務を行っていました。検査結果に誤りはないか、意見は公平であるか等々を地道に検証していく仕事でしたが、会計の専門家である公認会計士として役割を十分発揮することができましたし、会計以外の金融機関の業務全般について勉強させていただくこともできました。

公務員の組織風土は縦割り社会であり、恒例行事やしきたりが脈々と引き継がれている由緒正しき世界。そんな中に、公認会計士の自由な世界で野放しに育った私が入った訳ですから、最初は異星人の到来にみなさんとても困惑していました(笑)。

※2…金融証券検査官／金融庁検査局や財務省財務局に所属し、金融機関の業務や財産状況などにつき検査を行う担当の役人を指す。

上司部下関係なく意見を言うものですから、私の言動一つ一つにみなさん大騒ぎ!! 慣れるまではマンガの世界みたいだと、とても楽しかったのを覚えています。

「必要とされる存在に」と結婚を機に思う

結婚したのは大手監査法人勤務時代です。当時は仕事がとても忙しく、家庭をもち子供のいる女性が働き続けることは恵まれた環境にあるごく一部の女性を除きとても難しいことでした。

結婚した頃、今後も仕事を続けるためには、監査法人から必要とされる存在にならなければと思い、専門分野を持ちたいと考えていました。公認会計士の業務も幅が広いため、公認会計士の中でもさらに専門分野があるのです。監査法人から財務省への出向の話をいただいたのはそんな時。少し悩みましたが金融分野への専門知識の習得ができると思い、出向を決めました。

出向時代に、国内（主に東海地区）金融機関の情報や各金融機関がどのような会計処理をしているのかほぼすべて把握できましたし、会計分野以外の金融機関の業務や関係法令、金融商品等の勉強をすることもできました。そのおかげで、今では各金融機関のレベル感や組織風土を把握できるまでにな

りました。

出向後もそんな金融証券検査官としての経験を評価していただき、いくつか仕事の依頼が来るようになりました。その一つが今お引き受けしている愛知県庁での資金管理嘱託員※3の仕事です。

出産を機に転職

「自営感とメンバーの結束」という財産

財務省出向時代に男の子を出産。子供を保育園に預けて仕事復帰しました。仕事と子育ての両立は予想以上に大変。

そんな生活のなか財務省での任期を終了して大手監査法人へ復職。残業、出張を制限して仕事することを選択しましたが、充実感には欠けるものがあり、このまま働き続けるべきか悩んでいる時に、いくつかの金融機関を監査クライアントに持ち金融検査を通じてご縁のあった、かがやき監査法人から声をかけていただき、思い切って転職しました。

「かがやき」は中小監査法人であり、大手監査法人の時と比べてクライアアントも限られるし、規模も小さい。けれど、フラット（対等）な組織で、同年代の社員全員が役割分担を持ち、助け合いと信頼の上で成り立っていて、自分たち色の監査法人を作り上げている最中です。受け身で監査をやっていた

※3…県庁での資金管理嘱託員／県の資金管理業務に関する助言等を行う人。

【皆見ノート】

□ 皆見流運気を上げる法

私が日々実践している皆見流運気を上げる法を紹介します。是非！お試しあれ。

① 専門家でいよう！

何でもいから専門分野を持とう！

私は公認会計士として、少しずつでもいから勉強を続けるような心がけています（なかなか難しいけどね！）。

② あきらめない！

あきらめず続けることが目的を達成す

大手監査法人の時とは違い、情報も限られる中、みんなて試行錯誤して会計基準や監査委員会報告等を読み解き、自分たちの監査法人に反映させていく。責任が大きい半面、仕事に充実感を感じ、主体的に監査に取り組むようになりました。

自宮感を持つようになったので、新規クライアントや新しいメンバーが増えると素直にうれしく感じます。

さらに、社員はみな個性的で、公認会計士としてのキャリアは様々。それぞれ専門分野・役割分担が違い、お互いの経験や能力、知識を尊重し合える存在。仕事はみな真剣で、意見の分かれることもあるけれど、とても仲が良く何でも言い合えるメンバー同士の結束が、学生時代の気の合った仲間や先輩といるような感じがして、とても心地よく感じています。飲み会の回数もかなり増えました(笑)。

以前に比べて仕事は忙しくなりましたが、楽しく充実した毎日を送っています。

元気を保つために、こぎれいをこころがけ、仕事以外の新しいことへの関心(最近、お料理とピアノの教室に通っています)を持つようにし、ほんのちよっぴりでいいから日々の進歩をめざす。働くことに理解を示してくれている家族に感謝している今日この頃です。

る近道。やり通す強さを持つとう！

③自分らしく！

いろんな人がいて、いろんな考えがあるから楽しいのよ。変人・不良大好き！

④こぎれいでいよう！

こぎれいしていると、気分もシャキッとしてやる気と元気が湧いてきますし、幸せを引き寄せてくれるような気がします。

⑤出会いを大切に！

一期一会。そんな偶然な出会いも、なるべく多くの人と出会い、人のつながりを大切にしているからこそ生まれるもの。

⑥明るく前向きに！

反省はするけれど過去をいつまでもひきずらない。嫌なことは、きれいさっぱり忘れてしまう(笑)。

□アドバイス編

私が、貴重な青春の時間を公認会計士受験に捧げて試験勉強に励んでいた頃、試験勉強がつかうて逃げ出したい時でもなんとか頑張り通せたのは、公認会計士として颯爽と仕事をこなす自分になりたいたいと思う気持ちだけでした。

「監査法人での激務に耐えられず」と若くして独立、今年で10周年を迎えました。
メディアでも活躍の平林さん、人気の秘訣とは…？

平林 亮子



ひらばやし りょうこ

公認会計士

平林公認会計士事務所所長、
合同会社アールパートナーズ代表

Profile 98年 大学卒業後、太田昭和監査法人(現新日本有限責任監査法人)に入所/00年 公認会計士3次試験に合格/独立、平林公認会計士事務所開設/10年 中央大学商学部客員講師就任
女性士業による情報発信プロジェクト『ソフィアネット』をプロデュース。コンサルティング業務他、企業・大学等で各種講義、講演、執筆等多数に従事

独立して分かった大切なこと。

「決断前の慎重さ」より「決断後の誠実さ」。

2010年、平林公認会計士事務所はおかげさまで開設10周年を迎える。

最終試験に合格し公認会計士事務所の登録をしたのは2000年4月、監査法人を退所したのはその6月末、「平林」姓に変わったのは11月なので、正確な10周年は何月になるのかわからないが、どうやら無事にその日が来るらしい。

正直なところ「10年も続くなんてびつくり!」。と同時に「たとえ明日事務所がつぶれても悔いがないほど幸せだなあ」と感じている。ビジネスプランもコネも何もないまま勢いで始めた自分の事務所に、さまざまなお依頼が途切れることなく舞い込んでくる。独立してから、もう十分すぎるくらい色々な経験をさせていただいた。経済的にも自立できている。これ以上、何かを望んだらバチが当たりそうだ。

そもそも、私が監査法人を辞め独立して事務所を開設したのは、監査法人勤務に耐えられなくなったからだった。

毎朝のラッシュ。容赦なくブッキングされる出張。監査業務は好きだったけれど、体力のない私には到底続けることはできないと感じた。

独立後の収入源として決まっていたものと言えば、監査法人のパートが少々
と専門学校での講義が少々。

独立を決めたときには結婚も決まっておらず、監査法人のパートナーから
も親からもさんざん「なんで辞めるんだ？」と責められた。

それでも、決心は揺らがなかった。というよりも、決心なんてしていなかつ
た。ただ、現状から逃げ出したかった。それに、独立してうまく行くなんて、
毛頭思っていなかった。「2、3年したら、どうせ依頼がなくなつて、事務所
は自然消滅する。そうしたら家庭に入るか、親に頭を下げてフリーターになる」
と思っていたのだ。

そういう適当さが却つてよかつたのかもしれない。どうせ何をしたいわけ
でもないから、頼まれたことはとりあえず何でもやってみようと思えた。そ
の業務が楽しいかどうかとか、自分の実力でできるかどうかとか、そういつ
た難しいことはあまり考えず、「何の実績もない私に任せてくれるというのだ
から、ありがたく一生懸命やってみよう！」と取り組むことができたのである。

「すき間仕事」でもちゃんと対応したら
次の仕事が来てくれる

もつとも、実績のない私にとんでもなく難しい依頼がくるはずもない。友

人の紹介で受けた依頼はとりあえず全うすることができた。誠実に着実に業務をこなす。すると「これもお願いできますか？」と依頼が続いていく。世の中には「高い報酬は支払えないけれど、会計の素人には任せられない業務」が意外とそここに転がっているものだ。

たとえば、記帳代行もその1つ。もちろん、記帳代行専門業者もあるし、税理士事務所で記帳代行をしてくれるところもある。でも、会社のお金のことだから誰にでもお願いできることではない。「信頼できて丸投げできる人、でも会計データを税理士さんに見せる前に相談にも乗ってくれる人」が重宝される。若い公認会計士は、そういう業務にうつつつけの存在なのだ。

独立できない理由を「不安」に求めるのは絶対におかしい

最近「独立したいけれど不安」とか「ちゃんと準備してから独立したほうがいいですか？」といった、独立に関する相談を受けることが増えてきたのだが、個人的な意見を述べるなら、そういう発想自体がナンセンス。

だって、独立してうまくいくかどうかなんて、「神のみぞ知る」なので、不安を感じるから独立はやめた方がいいとか、不安がなくなったら独立するといった類のものではない。不安を抱えて独立してもうまく行くかもしれない

※1…記帳代行／法人や個人における帳簿作成の外部委託。委託される会計専門職側から見ると「帳簿」「記入の「代行」となる。

し、不安がなかったからといって独立してうまく行くとも限らないのだ。

同様に、準備をいくら積んでもうまくいかないときはうまくいかないし、自分のビジネスプランを思い通りに実現できるほど世の中は甘くない。

どんなときでも大切なのは、動き出す準備をすることではなくて、動き出すことなのだ。もちろん、準備が必要でないとは言わないが。

そのうえ、お客さんのニーズは多種多様。だからお客さんと向き合って初めて、本当に勉強すべきこと、準備すべきことが見えるはず。公認会計士は、通常は誰かのビジネスを助けることが使命だから、監査法人にいるなら経済社会やクライアントのニーズを、一般企業にいるなら会社内外のニーズを、独立するなら周囲のニーズを知って、それについて勉強し、実践していくしかないのだ。

経営者としてとん話し込むのが基本

「一期一会の精神」でやって来れた

弊社のコンサルティング業務の具体的な内容は「できることなら何でもする」である。ただし「事務の代行はしない」ことにしている。事務代行を全く請け負わないわけではないが、経営者さんのプレスト相手となることを基本としている。売上を上げたい、新しいビジネスを始めたい。そんな経営者

さんとトコトン話をする。もちろん、会計、税務、法律、実際の会社運営に至るまで、自分の知識を総動員して相手をする。

具体的な話題は、会社設立、ビジネススキームの構築、資金調達、場合によっては営業や広報に至るまで様々で、実際に会社組織の設計はもちろんのこと、月次決算の導入、事業計画の作成、匿名組合（匿名）の組成、書籍の企画、イベントの企画など、いろいろなことを経営者さんと一緒に手掛けてきた。

一緒に、とはいっても、決断は経営者さんが勝手に下してくれる。

「その取引をしたら、ここで税金が課せられます」「それだと、キャッシュがここでショートするのでは?」「望まない株主が入る危険を避けるための資金調達方法なら……」といったヒントを出せば経営者さんは「それならこうしたらどうだろう?」と答えを見つけていく。

専門士業が持っている知識を生かして、ビジネスの行く末を先々まで想像してみれば、そこにさまざまな問題点や解決策が見えてくる。そんな専門家の言葉をヒントに、経営者は自分の答えを見出す力を持っている。それが弊社の実施しているコンサルティングだ。

いわゆる営業はしていない。この状況を作り出せたのは、一言でいえば「身近な人と仲良くしてきた」からだ。

友人からのたった一つの依頼が、次のご依頼、次のご依頼、と続いていったのだ。

※2…匿名組合/当事者の一方(匿名組合員)が相手方(営業)の「営業」のために「出資」をなし、その営業より生じる「利益」の分配を受けることを約束する契約。契約形態を言う。つまり、営業者が匿名組合員から集めた財産を運用して利益をあげ、これを分配するのが匿名組合契約である。

【平林ノート】

□ ONとOFFのない日常

いわゆる労働時間をあえて集計すると毎日平均3、4時間。実際には24時間クライアントさんのことや執筆のことを考えているので、年中無休ともいえる。何が仕事で何が仕事じゃないのか、何が仕

人脈もそう。実際に隣にいる友人をできるだけ大切にしようと思いがける。

ご依頼も出会いも一期一会。それが、次を運んでくれたのだと思う。

頑張りすぎなくても何とかなる

肩の力を抜いて考えよう

もちろん、大きな夢、野望や目標をもって、そこに向かって進むもよし。

でも、そんなものがなくても、一生懸命な人に世の中は優しいと思う。監査法人を逃げ出してもノープランでも営業しなくても10年は依頼が続いたのだから。「あれもこれも」と自分の思い込みで自分を縛るのではなく、肩の力を抜いて本当にすべきこと、できることを考えてみれば未来が見えると思いたい。

……と偉そうなことを言いつつも、明日には事務所がつぶれているかもしれない。その時はその時。そうなつてから考えることにする（笑）。

事で何が家庭なのか、考えると難しく、考える意味も見出せないで、両立とかバランスといったことは気にしない。「ONとOFF」ということをまったく意識しない毎日を過ごしている。

□ 一期一会

気をつけているのは、①会ったその日にメールを出す ②特別な感謝は手紙で伝える ③相手の肩書は無視して人としての敬意を払う、といったことくらい。それが出会いのチャンスを広げてくれたのだと思う。おかげさまで、現在は本当にさまざまな知り合いがいて、そういう人たちに支えていただき、生かしている。

□ 報酬について

お金の話をするのもどうかと思っただが、コンサルティング報酬だけで会計士の初任給と同じくらいの額の売上となる。従業員のいない会計士事務所であるため、売上はほぼ年収に相当すると思うが確定申告の時以外あまり細かく計算はしていない。（参考まで）

普通の会社に就職した後に公認会計士試験に合格し、監査法人で4年間働いて再び一般企業に入った山口さん。企業内会計士の醍醐味とは？

山口綾子



やまぐち あやこ

公認会計士

YKK株式会社 グループ財務・

経理センター経理グループ

Profile 94年大学卒業後、06年 公認会計士3次試験合格、監査法人トーマツ（現有限責任監査法人トーマツ）名古屋事務所／10年 YKK株式会社に入社、グループ財務・経理センター経理グループ所属
会計や監査のグループ方針策定や連結決算業務に従事

一般企業では他部署との折衝が不可欠、
コミュニケーション能力が鍛えられます。

会計士試験の合格までは何年もかかりました。ギリギリの生活の中、最後の試験が終わったときには銀行口座に5千円しかなく、本当に辛かったことを覚えています。

30歳でようやく合格した後は、監査法人トーマツ名古屋事務所に入所し、様々な会社に監査に行きました。今思えば、生意気なだけで最初は全然役に立っていなかったと思いますが、諸先輩方からは熱心にご指導いただき、また多くの仲間と出会うことができました。この4年間で得られた知識や、様々な会社に行くことで培われた実務的な感覚は、今でもとても役立っています。

監査法人で働くうちに
ふと芽生えた疑問と不満

一方で、監査法人に在るうちに、いろいろな疑問や不満も出てきました。一番の疑問は、「監査で各企業の財務・会計について指摘ばかりしているが、いざ自分でやれと言われたら作れるのだろうか？ 人のやることに意見してい

るだけじゃないのか？」ということでした。作る側に回ってみたいという気持ちですが、日に日に強くなっていきました。

不満については忙しすぎるというのもありましたが、荷物が重い、自分で帰る時間を決められない、ひざ掛け等で寒暖を調整しづらい、といった些細なことが私には負担になっていました。これらの点は、転職した今ではほとんど解消され、毎日がとても働きやすいと感じています。

もう一つ、私は海外で働くことに強い憧れがあり、その可能性がより高い会社に行きたいという気持ちがありました。まだその夢はかなってはいませんが、YKKは海外に積極的に人を派遣することに定評があり、手を挙げ続けていけば必ずチャンスが巡ってきます。

なぜこんなに海外に憧れるのだろうかとふと考えてみたところ、小学生の頃に読んだエッセイ漫画に、「海外で働く女性はなぜこんなに生き生きしてるのだろう」という記述があったからだと気づき、そんな単純な（アホな？）理由を夢にここまで頑張ってきたのか…と、なかなか感慨深いものがありました。

仕事の幅も視野も広がった 一般企業への就職

YKKに入り、グループ財務・経理センター経理グループに配属されました。

YKKグループ全体の会計面の方針を決め、グループ業績の連結作業を行い、有価証券報告書や計算書類を作成する部署です。最初は会社独自のやり方や連結システムに慣れるのに時間がかかりましたが、有価証券報告書や計算書類作成については監査法人でじっくり学んでいたこともあり、問題なく取り組めたと思います。

また、平均勤続年数が長いということは転職者が少ないということでもあります。社歴の長い人が多い中、自分が受け入れられるのか不安もありましたが、幸いこれまでそういった排他的な雰囲気を感じたことはなく、思った以上にすんなりと馴染めています。

意外だったのは、会社の人たちがみんな、会計士の前でなくても「〇〇先生が△△工場にいらつしゃる…」と敬語を（！）使っていることでした。監査法人にいた頃は、「絶対、会社の人には嫌われているだろうな」「いないところでは呼び捨てとかされてるだろうな」と思っていたので、これは少し嬉しい出来事でした。

仕事については、監査法人にいたときによく「一般企業に行く仕事に限られてつまらない。監査法人のほうが、いろんな会社に行けるし出張もあつて楽しい」という話を聞きました。しかし、私の実感としては少々違います。確かに「いろんな会社に行ける」「出張が多い」のは監査法人だと思います。

しかしいろんな仕事ができるかという点、私にとっては監査法人は逆に、「ど

【山口ノート】

□ 私の会社について

YKKグループは主にファスナーや建材を製造・販売しているメーカーです。非上場ですが、70カ国・地域以上に100社以上の子会社を持ち、グループ全体で6000億円規模の売上があります。また、経営の透明性を高めて企業価値を向上させるべく、上場企業と同程度の開示を行うという会社方針があるため、J-SOX監査も受けているし、四半期報告書も2010年度から導入予定です。入社前、「非上場だから経理の仕事もラクだ」とこっそり思っていた私は、少なからずガッカリしたものです。

ここに行っても監査ばかり」という印象でした。

転職して、仕事の幅は広がったと感じています。会計関連では、会計期間の統一や海外子会社の監査方針策定、グループ会計基準策定といった様々なプロジェクトに関わっています。また、会計とは直接関係がないような仕事、例えば経営層や海外子会社に対してのプレゼンテーション、株主総会の運営、新卒学生の皆さんの採用面接など、これまで馴染みのなかった仕事にも携わることができました。会計の専門家になりたければ監査法人にいたほうが情報も多いし良いと思いますが、いろいろな仕事をやってみたい人、いろんな方向から物事を見たい人は、一般企業のほうが楽しいかと思っています。

もちろん良いことばかりではなく、監査法人のほうが優れていたと感じることも多くあります。例えば、監査法人は現場に行く人が次々に変わるのので、引き継ぎを行う工夫はとでも優れていました。フォーマットを統一したり、引き継ぎの内容を詳細に記述したり、色や文字といった監査調書の記載ルールを統一したり、そういった点は素晴らしかったと思います。引継業務やマニュアル化は今の会社の弱いところだと感じているので、監査法人のやり方を見習っていききたいと思っています。

監査法人が「専門家集団」なら

一般企業は「チームプレーヤー集団」

□ 会計士を目指した理由

実は私は、公認会計士の資格自体をずっと知りませんでした。大学卒業後に就職した会社では営業に配属され、毎日飛び込み営業をしていました。しかし、どうにも自分には向いていないと感じて転職を考えたのですが、折りしも不況の真っただ中、資格もなしに転職活動を行うのは不安があったため、とりあえず簿記の勉強を始めてみました。日商簿記2級まで順調に取得したので、すっかり勘違いした私は、「公認会計士という資格があるのか。いっそ会社を辞めてこれをめざそう!」と受験生活に突入しました。

□ 金銭面に関すること

金銭面についても触れておきます。いま現在、私が監査法人で勤めるといくらかのお給料になるのか、正確なところは分からないので何とも言えませんが、転職活動を行った際には同程度の水準でした。また、今の会社は家賃補助や社員食堂がある上、スーツの出番も減ったので出費自体が抑えられていますし、監査法人と同様に公認会計士協会の会費やセミ

どんな人が企業内会計士に向いているのか、個人的な考えを言えば、コミュニケーション能力がある人だと思います。なぜなら、監査法人は会計の専門家ばかりで構成されていますが、一般企業はそうでないという大きな違いがあるからです。監査法人では、基本的にすべての人が会計の知識を持っており、会計を中心にすべてが動いていきます。一方で一般企業は、経営、営業、製造、人事等といった、それぞれの専門家で構成されています。

一般企業の目的は決して会計ではなく、企業価値を高めてステークホルダーに対する責任を果たすことです。それに向けてお互いが補完しあう必要があります。そのために他部署や関係者と折衝しながら実務をこなすコミュニケーション能力は、強く要求されてきます。

監査法人では、会計の知識があつて仕事をたくさんこなせば、イコール「仕事ができる」とみなされ、コミュニケーションが下手でも許容される面があつたように思います。人とのやりとりが苦手な人、あるべき論ばかり言う人、会計的な専門用語ばかり使ってしまう人は、一般企業には向いていないと思います。女性は当たりが柔らかいし、柔軟性がある人が多いので、比較的方向いているのではないのでしょうか。

監査をやっている、本当にこれが実務に役に立つのだろうか、机上の空論になつていないだろうか、という疑問を持つことがあつたら、ぜひ一般会社への就職・転職を考えてみてください。

ナー代も負担してもらっています。もちろん会社によって事情は異なるので一概には言えないでしょうが、私に関して言えば特に金銭面での不自由は感じていません。

□ 企業への就職・転職を考えている人へ
よく資格は武器だと言われますが、私はむしろ盾のように考えています。企業（監査法人も含めて）には、それぞれ様々な特徴や個性があります。風土も違えばやり方も違う。しかしその中で、公認会計士の資格があり、普遍的な知識を持っているというのは、ある程度どこに行ってもやっていけるということだと思います。また、そういったバックグラウンドがあると、自分の発言に自信を持つことができます。

その盾を自信として、監査法人以外の道に進むことを恐れなくて下さい。少しでも「作る側」に興味があるならトライして下さい。合わなかつたらまた監査法人に戻れば良い、といった気持ちでも良いと思います。そういう生き方が可能になるように資格を取ったんですから。

09年公認会計士試験に合格した大西さん。監査法人への就職難の中、一般企業を選んで思うこととは？ 皆さんへメッセージを贈ります。

大西かほる



おにし かほる

公認会計士試験合格者

野崎印刷紙業株式会社管理部経理課

Profile 96年大学卒業後、一般事業会社に勤務
/09年 30代半ばで公認会計士試験合格/現在、
野崎印刷紙業株式会社(東証・大証2部上場)入社、
管理部経理課所属
有価証券報告書等の開示書類作成に従事

私の作品、有価証券報告書を

世に出した時の感慨は忘れられない。

08年の試験が終ってホッと息つく間もなく、すぐに就職活動が始まりました。リーマンショックで日本も不況の渦へまっしぐらで、監査法人も一斉に採用を絞っていました。このような状況の中、年齢が高い、無名の学校卒業、一般事務の職歴のみの三重苦の上、就職活動に力が入らないといった精神状態で、皆と同じような活動では当然のごとく内定はゼロでした。

会計士就職氷河期の中で

自分を見つめ、トライを繰り返す

もう1年だけ受験をしようと思われ、09年の試験後、前年と同じように就職活動が始まりました。09年は前年の失敗を生かして改善すべき点を知っている私にはアドバンテージがあると思われました。具体的には、09年は東京と名古屋の監査法人にも活動範囲を広げました。また、各監査法人の面接後は、エントリーシートと面接内容を見直し、シートに修正を加え次の面接に挑んでいました。おかげで最後の方のシートでは随分改善していたと思います。

活動内容は改善したものの、景気は回復どころか悪化する一方で、残念ながら合格発表後も内定は監査法人も含めて一つもいただけませんでした。しかしそれは、自分を見つめ直す良い機会になりました。就職先も監査法人しか考えていなかったのですが、やはりその根底には企業を支援したいという気持ちがあることに気づいたのです。

もちろん監査業務も企業を支援する仕事ですが、もっと直接的に会社の内部者として支援する、例えばゆくゆくは企業に行く財務面における意思決定への参画が可能になるのであれば、一般企業に勤めるのも私の気持ちに反しないのではないかと、と思えてきました。

このように自分を見つめ直してから、視野を広げて中小監査法人、一般企業、会計事務所への就職活動を始めました。また、情報収集や自分を売り込むため、積極的に同期に話しかけたり、種々のイベントやセミナーに参加し自分で作った名刺を配って回りました。

その他、日本公認会計士協会が提供してくれた無料職業紹介所の求人情報に載っている企業等に片っ端から履歴書を送りましたし、いくつかの人材紹介会社にも登録し、履歴書等の改善や面接上のアドバイスをいただいたりと、思いつく全てのことを行いました。

しんどいながらも活動を続けていくうちに、ネットワークが広がり就職活動も楽しく思えてきた頃、一般企業から採用の通知をいただきました。

一般企業の会計士ならではの 三つの欲びについて

一般企業に就職することになり、私は野崎印刷紙業(株)の管理部経理課に配属されました。主な仕事は決算短信^{※1}、四半期報告書、有価証券報告書、計算書類等の開示書類を作成することです。有価証券報告書等を作成する立場になって、私がよかつたと思う点が三つあります。

一つは、有価証券報告書等の数値が出来上がるまでの過程が理解できることです。実際に有価証券報告書等を作成して初めて、財務諸表の数値が生きた数値に変わりました。決算月以外は経理業務も行いますが、この業務を経て財務諸表の数値に反映されるのか、と思いながら処理をしています。

二つ目は、勉強した情報をすぐに実務で使えることです。有価証券報告書等を作成するにあたって、最新の基準を知っておく必要があるため、会計関係の情報誌等を読み、セミナーにも参加して情報のアップデートを行っています。受験時代によく、「この勉強した知識が実務で役に立つのだろうか」といった疑問を持ったものですが、今は習得した情報をすぐに実務に反映することができま

す。そして三つ目、これが醍醐味ですが、自分が作成した有価証券報告書等が外部に公表されるということです。入社までは有価証券報告書等の作成経験

※1…決算短信／株式を証券取引所に
上場している企業が、証券取引所の適時
開示ルールに従い公表する決算速報の
こと

は全くありませんでしたが、09年3月期からコーポレート・ガバナンスや金融商品に関して新たに加わった開示義務についても入社後すぐに任せられました。もともと、早く公表した企業の短信やコーポレート・ガバナンスに関する報告書から当てはまる文章を切り貼りしていたので、作成と言うよりはパッチワークと言った方が正しいかもしれません。このような「つぎはぎ仕事」でさえも、報告書等が出来上がり、ネットを通じて見た時は本当に嬉しかったことを思い出します。

次の四半期報告書からは連結の計算も担当することになっていたので今から楽しみです。

メリットもデメリットも…

結局、本人の努力次第だと

さて、良いことばかりを並べましたが、一般企業に勤めるデメリットがあることも確かです。まず、当然のことながら監査の実務経験を積むことができませぬ。しかし、往査の際に監査の現場にいて、監査人と上司の対応を見聞きすることができまますので、監査に必要な企業側の資料や監査人がする質問について知ることができます。

つぎに、給料についてですが、初任給は確かに監査法人に比べると低い場

※2…実務補習所／公認会計士となるには、試験合格後2年間の実務経験（業務補助または実務従事）と会計教育研修機構などが実施する実務補習を受け、日本公認会計士協会の修了審査に合格することが義務づけられていて、この補習が行われる場所のこと。

【大西ノート】

□ 公認会計士になろうとしたきっかけ

私が会計士試験の勉強を始めたのは06年の春です。簿記を勉強してほしい、と小さな会社を営んでいる母からずっと言われ続けていましたので簿記3級の講座を受けてみたところ、「簿記って結構面白い」と思ったのです。そして公認会計士の受験も、予備校の公認会計士のパンフ

合もあります。ですが、後に一般企業の給料が監査法人の給料より高くなる場合もあると聞いており、要は本人の努力次第だと思います。

そしてもう一つは、勤務先によっては実務補習所※2に通えない、または通いづらい場合があると聞くこともある、ということ。「聞くこともある」というのは、ありがたいことに私の勤務先は非常に協力的で、実務補習所に通うことについて困ったことがないからです。

実務補習所等で聞く情報によると、日本公認会計士協会の無料職業紹介所に載っているような企業は少なからず公認会計士試験合格者の採用に関心があり、比較的協力的な企業が多いように感じます。しかも、実務補習所の19時間開始クラスができたり、e-learningによる受講が可能な授業も増えつつあります。また、3年間ビッシリと授業があるわけではありませんし、今後は、平日クラスは週1日以内となるようなので、実務補習所を理由に一般企業への就職を除外するのはもったいないと思います。

このように、一般企業に勤めるデメリットは、やり方によりカバーすることができるとは思いますが私は考えています。

レットを見て、一度やってみよう、と簿記3級のノリで始めてしまいました。予備校の講師からもすぐにやめるだろうと思ったと後に聞きました。それが、こころで勉強をしたのだからもったいないと思いい、最後まで続けることになったのです。

□ 視野を広げてみませんか

これから受験を考える方、合格後就職難で苦しんでいる方々へ。運命に身を委ねた方がいいと言うつもりはありませんが、最初に立てたキャリア計画に固執し過ぎて、せっかくの大きなチャンスを見逃すのはもったいないように思います。一般企業に勤めて学ぶべきことは大いにあるはずなので、実際、私が勤めている会社の上司は資格がないものの、資格のないのが不思議なほど会計や法務についての知識が豊富です。一般企業に勤めた後に監査法人に移ると言う選択肢もありますし、一般企業で培った能力は十二分に発揮できると思います。自分の可能性を制限しないで、ぜひ広げてみて下さい。きっと、新しい発見があると信じています。

寄稿

企業内会計士の可能性と、 今後のネットワーク化への試み

日本公認会計士協会近畿会では、各企業に点在する企業内会計士間のネットワークを構築し、交流を活性化させるという取り組みを始めています。

以前は、業界の内外ともに「公認会計士＝監査専門家」という認識が強く、「公認会計士試験の合格者は、まずは監査法人や会計事務所に就職するもの」という固定観念があったようです。しかし近年、就職活動の過程で企業に入社する人は確実に増えています。監査法人勤務の若手の方々が監査法人から一般企業へ出向するといった試みもすでに始まっており、将来のキャリアプランとして企業内会計士という選択が有力になっています。

企業内会計士は普段、一社員として資格を持たない同僚たちと同じ土俵で企業実務に従事しています。そんな、各企業内で奮闘している公認会計士たちにも時には会社の枠を超えて、同じ資格を共有する他の人たちと交流できる場があれば良いと感じます。

今年3月には企業内会計士経験者の方々を講師に集め、「企業内会計士の今、そして今後の可能性」と題し、準会員向けのセミナーを開催し、予想以上に多くの準会員の皆さんの参加を得て好評を博しました。

企業内会計士のネットワーク組織が正式に立ち上がった際には、ネットワークへの参加を何らかの形で広く呼びかけることが必要です。そういった運営の具体化に向けた準備を現在進めている段階です。

今後、一人でも多くの女性会計士の皆さんが企業実務という道を選択され、企業内会計士の「バイオニア」として活躍されることを心から願っています。その際には、ぜひ企業内会計士のネットワークにも参加し、一社員に留まらない社外人脈と情報網を、会社業務へのハイレベルな貢献に活かしていただきたいと思います。

※筆者は現在、大手企業に勤務し、IR(investor relations/投資家や証券アナリストに対して自社の情報を提供する仕事)や有価証券報告書、決算短信の作成・開示、内部統制支援などの業務を担当しています。

第2章

女性会計士の卵は、
こんなことを考えている

この章では、試験合格後1～3年目の若手女性会計士に
仕事やプライベートの「期待と不安」を率直に語ってもらいました。
夢は「監査法人パートナー」から「店のオーナー」まで様々です。

女性会計士の卵たち



さくらさん

大手監査法人勤務3年目
20代

当初の予想以上だった監査法人のハードな日々、ややお疲れ気味。言いたいことはハッキリ、ちゃんと言います。



綾乃さん

大手監査法人勤務3年目
30代

「姐さん!」と呼びたくなる男前キャラ。病院のコンサルティングや監査を希望。出世より大切なのは「好きな道」。



葵さん

大手監査法人勤務2年目
20代

カラオケ好き。将来は飲食店を開こうと考えているが、会計士としてのキャリアアップにも意欲的。求ム「いい旦那さん」。



愛さん

大手監査法人勤務2年目
20代

商業高校出身。マイペース、かついつも穏やかで場を和ませる。出世よりも「クライアントに必要とされること」が大事。



千夏さん

大学在学中(会計士試験合格1年目) 20代

問題意識旺盛。監査の道を究めたいと欲するパワフルガール。今のところ結婚しようとは思っていないが…。



明日香さん

会計事務所勤務1年目
20代

おとなしいけど、かなりのしっかり者で向上心が強い。大きな企業の会計・経理回りを把握することが当面の課題。



詩織さん

一般企業勤務1年目
20代

話し出すと1時間は止まらないおしゃべり大好きガール。目下の悩みは、今の会社で会計士登録ができるかどうか。



葉月さん

一般企業勤務1年目
30代

明るくて笑顔が素敵な、ポジティブシンキングのキャラクター。会計士としてはパートナーまで上り詰めたいと希望。



先輩
公認会計士

和子さん

大手監査法人勤務18年目
40代

「仕事の早い人が好き」と言うだけあって本人も仕事が丁寧かつスピーディ。常に定時に帰りママとしての生活もエンジョイしている。おしゃれで男前な性格ゆえに、年下女子の信頼が圧倒的。

この声を聞けば

★これから会計士を目指される方にとっては… → 一番近い存在であり合格後の自分の姿をイメージできる!

★若手女性会計士が後輩にいる方にとっては… → 心の奥で本当は何を考えているかが分かる!

★1~3年目の若手会計士の方にとっては… → 同期の思いを知り共感するはず!

座談会くキャリア、結婚、今後のこと…

走り始めた私たちの本音について



そもそも、なぜ公認会計士
という職業を目指したの？

— まだまだ世間では知らない人も多い会計士
という職業ですが、みなさんなぜ会計士を目指
したのでしょう？

千夏 高2のときに偶然会計系の本を読んだこ
とがきっかけですね。ちょうど同時期にライブ
ドア事件があり、会計士が関与していることを
知って正直ショックでした。でもそれより、「現
場の会計士や会社担当者には様々な葛藤があっ
たのでは？」「何が原因でこんな事件が起こっ
たのか？」ということに興味を持ち始めて…。

ただ純粹に「実際のところどうなのか？」を

知りたいと思うようになり、その気持ちがだん
だん、自分も会計・監査業界にかかわって業界
を良くしていきたいという気持ちに変わり、最
終的に会計士を目指そう、となりました。

葵 親が会社を経営しているため、就職時に簿
記の資格を取っておいたほうがよいと言われ簿
記の勉強を大学2回生から始めました。簿記の
勉強はパズルのように楽しく、また、社会に触
れることができている気がして…そのまま会計
士を目指すことを決意しました。

いろいろ調べたら、給料がいいこと、様々な
企業を担当できることに魅力を感じたのも目指
した理由です。あと、正直言うと、会計士にな
れば、いい旦那さんが見つかるかな、と。

——「いい旦那さん」というものの定義が難しいんだけどね（笑）。

さくら 私は資格が欲しかったからです。将来結婚や出産を考えると、資格を持っていた方が転職に有利だと考えました。たまたま興味のある方向にあった資格が会計士でしたが、受験勉強を始めるまでは、会計士による監査が何なのかよくわからなかったかもしれません。

大学の学部を専攻したのは会計士の資格取得を決めてからです。予備校の説明会を聞きに行き、なんか違うなと感じたものの、今さらどうしようもないと、そのまま突き進んだ気がします。

綾乃 会計を通して、日本経済の治療をしたいと思ったからです。

——「日本経済の治療」ですか？ 頼もしい答えですね。

明日香 前職が激務だったため、長く安定して働ける資格を取得しようと考えた、というのが本音です。資格の中でも会計士にしようと思ったのは、会計のプロということに魅力を感じたからです。前の会社で決算書を目にする機会が増えるにつれ、会社の今ある姿をはつきり表す決算書のすごさ、みたいなものを感じるようになりました。

特に、決算書のなかで損を損と認めるのは、なんだか反省するための手段のようで、私にとっても日々の業務の反省材料となり、面白いと思えました。これがきっかけで、どうせ目指すなら高いところを、と思い、公認会計士を目指しました。

愛 商業高校出身ということもあり、簿記が好きだったからです。

詩織 本気で何かをやりたかった折に、簿記3



明日香さん 会計事務所勤務1年目 20代
「決算書は会社を映す鏡のようで面白いです」



さくらさん 大手監査法人勤務3年目 20代
「資格が欲しかったからこの道を選びました」

級の講座を受けて、「簿記っておもしろい」と思ったからです。

葉月 ライフスタイルが変化しても一生続けられる仕事だと思って。

時計の針を戻したら、もう一度公認会計士を目指す？

—では、次の質問。試験勉強を始めた時に思っていた会計士のイメージと、今の業務内容にギャップはありますか？

綾乃 うーん、特にないです。

葵 私も。

さくら 予想していたよりはハードだけど、だいたい一緒かな？

—現実と大きくかけ離れることはあまりないみたいですね。みんな、就職前に監査法人の見学に行ったり話を聞いたりしているからでしょうか。

それでは、次の質問。合格後に働いた期間は皆さん様々ですが、もし今試験勉強を始めた頃に戻れるとしたら、もう一度会計士を目指すと思いますか？

葵 私は目指すと思います。いろんな企業に行き、いろんな上席者の方とお話ができますし。普通に就職していたら、一つの企業で、限られた人しか話せないのです。でも一度、一般企業に就職してから監査法人に入るのもよかったです。大卒で監査法人に入ったので、会社の仕組みとかがよく分からなかったのです。

千夏 私も。会計士という職業を知った当時から、会計士に対する強い憧れがありました。今



葵さん 大手監査法人勤務2年目20代
「最終目標は監査でなく飲食店のオーナーです」



千夏さん 大学在学中(会計士試験合格1年目)20代
「監査を究めたい。海外にも行ってみたい」

でもその気持ちは基本的に変わってません。なので、試験勉強を始めた頃に戻ってもまた目指したいです。

明日香 今の私の仕事は会計士でなくてもできる業務ですので、会計士の仕事について実感がないため、正直わかりません。でも、だからこそ、会計士になることへの憧れはありますので、やはり目指すだろうと思います。

葉月 私も目指しますね。試験に合格したことで、試験勉強を始めた頃より可能性が広がり、自分に自信が持てるようになったので。

さくら …何とも言えませんが、大学受験の頃に戻れたら違う道を選んでいたかも。こんなに監査法人内での競争が激しいとは…。そして、それが最初に決められたアサイン（割り当てられた仕事）によって左右されるというのが厳し

いなと。でも、まあどの世界でも一緒かな。

愛 私も目指さないかな。もともと、職業としての会計士に憧れて勉強を始めたわけじゃなかったの。

綾乃 監査業務の意義を見出せていないので。まだ経験不足なのかもしれません。

詩織 まだ、会計士に合格して日も浅いので正直よく分かりません。

**監査の道を究めたい人
自分でお店を持ちたい人**

—さて、皆さんはそれぞれ今後のキャリアアップを考えていらっしゃると思います。進みたい道・目標などは明確にありますか？
まず「ある」人からお願いします。



綾乃さん 大手監査法人勤務3年目 30代
「病院のコンサルティングや監査をしてみたい」



詩織さん 一般企業勤務1年目 20代
「会計士に合格してまだ日も浅いので…」

葵 最終目標は、(監査ではなく)飲食店を経営することなんです。健康志向のお店をやりたいと思っています。具体的には、監査法人で5〜7年働き、子供ができたなら退職。子育てをしながら、栄養士と調理師の資格を気長に取得し、子供が手を離れたら、今までの経験等を活かして飲食店を開業するのが夢。そのお店で、自分の色を出して好き勝手やりたいです。

— なかなか面白いですね。しっかりしている。

綾乃 病院のコンサルティングや監査をしてみたいです。

千夏 当初の志どおり、監査を究めたいです！海外勤務も少し興味があります。

明日香 今は、規模の大きな企業の会計・経理周り全般を把握できるようになりたいです。

愛 とても漠然としてますが、企業を支援したいです。特に税金によるキャッシュアウトを軽減できるように、税務に強くなりたいです。

— まだ進みたい道が「ない」方はいかが？

さくら 監査法人入所時は、ゆくゆくは病院経営のコンサルティングをしたいなと思っていましたが、最近は監査もちょっと楽しくなっているので、迷っています。

葉月 今まで予想、想像していた路線とは全く異なるため、まずは仕事に慣れ、これから進みたい道を決めていきたいですね。

ズバリ！ 私たちは
こんなことが不安

— 実際に仕事をしてみると世間の荒波に揉ま



愛さん 大手監査法人勤務2年目 20代
「出世ではなくクライアントに求められたい」



さくらさん 大手監査法人勤務3年目 20代
「人が余ってきているので選択肢が少なくて」

れ、いろいろと思うこともあるかと思いますが、今、何か不安に思うことはありませんか？

葵 いい旦那さんが見つかるでしょうか。それと、5〜7年くらいは監査法人で働く予定ですが、人数が多くなっている今、シニアスタッフレベルの仕事を任せてもらえるようになれるかどうか…。お店を経営するにあたり、シニアスタッフレベルの仕事までは経験しておきたいと思っているのです。

——うーん、もちろん職場には内緒なのですが、「お店希望」を前面に出されると、管理者としたら正直、昇格はどうかと思ってしまうのではないのでしょうかね。

綾乃 体力的に長く続けられるかということや、結婚・出産後に、職場に復帰できるかも心配ですね。

さくら 会計基準の変更に対応できるかどうかです。いつ頭が追いつかなくなるやら。あと、人が余ってきているので働き方の選択肢が少なくなるのではないかと。

愛 知識、能力が、指示をいただいている業務に追い付いていないように思うので、ずっとやっていけるのか不安です。

——なるほど、結婚や業務内容について不安を抱いていらっしゃる方が多いですね。しかし知識面なら吸収力のある若い皆さんが何といても断然有利だと思いますよ。他の方はいかがですか？

千夏 今年度の採用で内定が取れるかが一番不安です。現在大学生で社会人経験がなく面接にも不慣れなため、パワーアップが必要だと痛感しています。



葉月さん 一般企業勤務1年目 30代
「パートナーにまで上り詰めたいと思います」



明日香さん 会計事務所勤務1年目 20代
「不安だけど部署のリーダーになりたいですね」

明日香 私も、希望する職（大企業の会計、経理周り全般）に就けるのか不安です。

葉月 今まで想像していた道とは異なっているため、実務従事要件が充足できるのか、やはり監査も一度は経験したいと思うため、どのタイミングで動くのかということがわからないですね。

詩織 一般企業に勤めていますので、会計士登録ができるのだろうか、ということが少し不安材料です（公認会計士を名乗るためには、一定の実務経験を経た上での登録が必要）。

「出世したい」には前向き

「必要とされる」「好きを貫く」も

——就職や会計士登録に関する不安ということですね。皆さんいろいろ不安を抱えつつ頑張っておられる。それでは次の質問。ズバリ！ あなたは

出世したいですか？

詩織 もちろん！

明日香 私も。部署のリーダーには、絶対なりたいです。

さくら・葵 マネジャー（監査法人における中堅レベル）くらいまでなら：

千夏・葉月 パートナーまで上り詰めたいです！ 女性でも出世できる環境を自分から作る事ができれば良いなと思っています。

愛 私は出世ではなく、クライアントに求められる人材になりたいです。

綾乃 私も。出世よりも、好きなことができた方がいいと思っています。



詩織さん 一般企業勤務1年目 20代
「どうやって家庭と仕事を両立させるの？」



千夏さん 大学在学中（会計士試験合格1年目）20代
「結婚せず仕事に集中したいけどできますか？」

先輩にぜひとも訊きたい
あんなこと、こんなこと



—では最後の質問です。女性会計士の先輩に聞きたいこと・アドバイスしてほしいことはありますか？ せっかくの機会なので、先輩会計士の和子さんにいろいろと聞いていきましょう。

葵 いい旦那さんの見つけ方を聞きたいです！
それと、また、どんな部下を望むか、今までどのように知識を習得してきたかをお伺いしたいです。

さくら 居心地はどうですか？ 女性が少なかつた時と今と比べて。というのは、最近あったんですが、男性ばかりの現場だと何も問題ないのに、女性だけだとなんか不思議な感じだねー、という話題になってしまってます。また、男性の中に女性1人は普通なのに、女性の中に

男性1人だと肩身が狭いと言われてしまう。そう思うと、女性が少ない方が働きやすい気もするんですよ。

千夏 私は結婚はせずに仕事に集中したいと考えているのですが、多くの女性が結婚していくし、社会からの圧力もあると思うので、自分の意志を貫けるか心配です。自分の描いたキャリアプランを確実に実行していくにはどういったことを心がければよいかアドバイスを欲しいです。

—うーん、結婚したりしなかったり別れたりというのは結果論のような気がしますが、どうなんでしょう？

綾乃 結婚相手は同業者がいいでしょうか？
また女性で得したこと、損したことの経験談があれば教えて下さい。



綾乃さん 大手監査法人勤務3年目 30代
「同業者と結婚してうまくいきますか？」



葵さん 大手監査法人勤務2年目 20代
「いい旦那さんはどうすれば見つかりますか？」

詩織 ご結婚されている方で、どのようにして家庭と仕事のバランスを取っているのか教えてほしいです。

明日香 今、どのようなことを悩んでいるのか聞きたいです。それに対して、心の準備をしたと思うので。

— いろいろと質問が出てきました。それでは、女性会計士の和子さんお願いします。質問ごとに回答をまとめてみますね。

○どんな部下と仕事をしたい？

和子 時間内で成果を出してくれる人。私は仕事の早い人が好き。時間オーバーで90点の成果を持ってくる人より短時間で70〜80点（合格点）の成果を持ってきてくれる人がいいです。

時間内で仕事が終わるというのは、ワーキン

グマザーにとっては最重要事項だし、時間が無尽蔵にあると思ってガラガラ仕事している人は使いたくないですね。

また、仕事以外の趣味が豊富で人間として幅を感じられる人と一緒に仕事したいです。そしてできれば、お洒落な人。自分の身の回りに気を配れる人は、仕事にも気を配れると思うので。

それと、素直さ、やる気が見えると、こちらも「育てたろう！」という気になります。

今までの経験から、多くの女性は、与えられた仕事はきっちりこなしますが、新しい仕事の機会に対しては遠慮してしまい「そんなに頑張りたいくないのかな？」と女性である私でさえ感じて、機会を与えるのをためらってしまうことが多いように思います。

○昔と今、どちらがいい？

和子 居心地という点では特に意識していない



和子さん 大手監査法人勤務 18年目 40代
「素直さとやる気のある人を育てたいですね」

ですね。男性が圧倒的に多かったところと比べると宴会が上品になったかな。また、最近入ってくる女性会計士は綺麗な人が多いので事務所内が華やかになったように思います。

男性ばかりの職場というのも雰囲気は偏るので、今のほうがいいんじゃないですかね。女子飲みもできるようになったし。

○女性で「得した」「損した」は？

和子 得したことは、いろんな場面で男性よりも注目される場合が多いということでしょうか（よかれあしかれ）。また、何かの機会に女性であるがゆえに選ばれる、ということもあります。例えば、海外ブランドの洋服や宝石の輸入代理店のチームに「女性だから」ということでアサインされたこともあります。目の保養になる楽しい仕事でした。

女性を理由に選ばれることに抵抗感を持つ人

もいるようですが、出身地域や出身大学と同じように自分を構成する要素が有利に働くなら素直に利用するのがよいと考えていますよ。あとは、女性が少ないから名前もすぐに覚えてもらいましたね。

損したことは、仕事に対する責任感を示すのが男性よりも若干ですがハードルが高いということでしょうか。少なくとも家族を養って仕事をしているとは思ってもらえませんが、趣味で仕事をしているに近いとらえ方をされることはマイナスに働くと思いますね。

○いい旦那さんの見つけ方は？

和子 条件とかではなく価値観が合うか、で考えることでしょうか。それと趣味が全てではないけれども多少一致していると人生楽しいですよ。

自立している女性の最大の利点は旦那様の給料額を気にする必要がないことなので（私は結

婚10年以上たちますが、いまだに旦那の給料額を正確には知りません)、その意味で専業主婦希望の女性より、余計な要素を考えない分、むしろよい旦那様に出会える可能性は高いということですよ。

そんな人がどうやったら見つかるのか：これは難しい問題ですね。監査法人に閉じこもって見えては見つかると可能性も狭くなるので、積極的に外部とコンタクトをとることではないでしょうか？ 実際している間にたくさん話をするかとだと思えますよ。なお、家事育児は女の仕事と強く思いこんでいる男の人は、結婚後の再教育が難しいのではないかと思いますので、当初の見極めが必要かと思えますね。いまどきそんな人は少ないかもしれませんが。

○どのよう知識を習得してきた？

和子 人と話し、何が必要な知識かの情報を得

て、自分には足りないなと思つたらこつそり調べ、という感じでしょうか。

新しい会計基準等は全文を細かく読むのではなく、基準を設定するに至った背景をまず理解するように努めました。あとは、現場でその都度必要な知識を得ていくようにしたのと、若い頃は先輩がクライアントと議論しているのをそばで聞いていました。その際に、何を議論しているのか、論点は何なのかを考え、後から関連する基準や委員会報告に目を通すようにしました。自分の仕事と直接関係のない知識はなかなか身につかないものなので、現場で身につける知識というのはとても大切ではないかと思えますね。

また、職位が上がるほど会計以外の知識を持つているかという必要性も増しますので(企業統治について語れるか、とか)、そのような知識を得るには最新のアンテナが必要かと思えますね。



和子さん 大手監査法人勤務18年目 40代
「交際している間にたくさん話をする予定です」

○キャリアプランの実行は？

和子 これもキャリアプランをしつかり持って、でも視野を広く持って……というのは男女共通の要素なので、女性のライフサイクルとキャリアプランとの関係ということで特にと言えば、何を選ぶのか自分に問いかけて、自分自身が納得する整理をしていく事かと思えますね。

そして、はつきりと自己主張すること。育児支援制度を取るにしても、どのような働き方をしたいのか事務所と家族にきちんと伝えることです。その上で、必要な手段を模索すること。特に育児支援制度はまだ始まって日が浅いので、男性側もどのようにしてあげたらいいのか迷っているらしいですよ。たとえば残業の可否、出張の可否（基本的には避けたいが、必要な場合は調整のうえ残業も出張もOKか、全面的にダメなのか）についても自分の置かれた環境と取りうる手段を勘案の上、はつきりと伝えるこ

と。目指すポイントがはつきりしないと妥協点も見出せないと思うので。

「結婚するかもしれない」「出産するかもしれない」「旦那が転勤になるかもしれない」……と将来の選択肢が多様な分、明確なキャリアプランを描いていくのは難しいかもしれませんが、それさえ出来れば「女性だから不利」ということは今の世の中ほとんどないと思います。あとはそれを描いて、一步思い切つて足を踏み出せるかどうかだけの違いかなと。

——和子先輩のアドバイス、とても参考になりました。出席者の皆さん、熱い思いをありがとうございます。先輩方のメッセージは、まだまだこの後も続きます！

第3章

監査法人というフィールド

公認会計士の仕事の中でも「花形」である監査法人。

この章では大手監査法人の人事担当者が今の職場環境について語ってくれます。
そして監査法人の合併などを経てきた公認会計士の、奮闘の日々をお伝えします。

大手監査法人の人事担当者2人が働く環境について語る

「女性が働きやすい職場は一朝一夕には出来ないけど、確実にいい方向に変わってきています」

お話を聞いたお2人

鹿島 かおる

土岐 祥子



かしま かおる

公認会計士

新日本有限責任監査法人 シニアパートナー
法人内で女性のネットワークWindSを立ち上げる。夫・中学生の息子と3人家族。人事担当を経て、現在はコーポレートカルチャー及び広報担当常務理事。

Profile 81年 大学卒業後、太田昭和監査法人(現新日本有限責任監査法人)に入所/85年 公認会計士3次試験に合格/96年 パートナーに昇格/02年 シニアパートナーに昇格/08年 人事担当/10年 常務理事

とき さちこ

公認会計士

あらた監査法人 パートナー
入所時「残業か出張か」という究極の選択の下、子供のため「残業」を選択。それで国際部に配属され、外資系を中心に監査に従事。現在は人材担当執行役。

Profile 85年 大学卒業後、外資系の銀行に就職/90年 中央監査法人に入所/93年 公認会計士3次試験に合格/96年~98年 ニューヨーク事務所に赴任/00年 社員に昇格/05年 代表社員に昇格/06年 あらた監査法人へ移籍

大手監査法人の女性ネットワーク

各監査法人では女性や外国人などのマイノリティも活躍できる多様性ある職場環境づくりを目指して様々な活動をしています。

その1つとして組織横断的な女性のネットワークがあり、ここではすべての女性職員が働きやすい職場環境の整備等を目的にして、セミナーやワークショップ等を実施しています。また、名称に「女性」が入っている場合でも、より広くダイバーシティ（働き方等の多様性）を志向している点も特徴といえます。

四大監査法人では以下のプロジェクトがあります。

監査法人名	ネットワーク名
有限責任あずさ監査法人	WWN（Working Women's Network）
あらた監査法人	Women's Network Circle
新日本有限責任監査法人	WindS（Women's Interactive Network for Dreams and Success）
有限責任監査法人トーマツ	TWIn（所属する個人が仕事とプライベートという2つ（Two）のWin-Winな関係の成功＝“TWIn”を手にする事で、トーマツ（Tohmatsu）という組織が成功（Win）＝“TWIn”することを目指すという意味）

女性のネットワークも大事だけど、男性が「変わらなきゃ」と思わないと。

—女性のネットワークの活動状況はいかがですか。

鹿島 Windsをつくったきっかけは、当時の理事長から「うちは女性に優しい法人になるんだ。そのための制度を考えて」と言われて育児支援制度を作ったものの必ずしも使い勝手がいい環境ではなく、「使いやすくするのは何をしたらいいんだろう」という問題意識が自分の中でずっとあったことです。その時に他の法人で女性のネットワークが出来たこともあり、「やらなくてはいけない」という気持ちが大きくなり、最初は本当に手探りで、私を含めた6人でスタートしました。

立ち上げ当初は、各部門からリーダーを出してもらうために、私が人材開発本部長の名前を使わせてもらってお願いメールを出したりと手づくりで始めました。2年経った今では組織も充実し、各部門が自立的に動くようになって「ああ、成功してきているな」という実感があります。

土岐 私たちは、今はまだ本当に手づくりの段階ですが、今後、幅を広げて

いきたいと思っています。最初は日本人と外国人の女性パートナー2人がキーになって現場で自発的に作ったのがきっかけです。その人たちが中心になって、月1回程度、ランチミーティングで情報交換などをしていましたが、横広がりしようということで、09年9月に、最初の全体セミナーをしました。

活動を進めるには、Women's Network Circleに携わっているリーダーの人たち以外の男性陣たちにも、「何か女性がやっているね」というのではないスタンスを広げていかないと考えています。制度の運用をサポートしていく男性のマインドセットチェンジを、どういう仕掛けでやっていくかということが課題です。

それと、もともとは女性論点で始めたものですが、これはダイバーシティのなかの一つである「ジェンダー」問題としてアプローチしていこうと考えています。ジェンダーだけではなく、国籍やジェネレーション等のいろんなダイバーシティがある中で、「なぜダイバーシティが必要なのか」というところから始め、「自分と違う人から学ぶということがすごく価値のあることだ」というコンセプトをいかに広げようかと考えています。

難しいのが、どういう説明の仕方をするか、ダイバーシティというコンセプトが腹に落ちしてくれるかということ。1回説明するだけではダメで、いろんなところで話したり、仕掛けをしていって、「それって絶対やらなきゃいけないよね」というところを持っていければいいのですけどね。

鹿島 そうですよ。その「腹に落とす」のが難しくて。そこでクライアントのCOO（最高執行責任者）を招いて、当法人の経営陣と一緒にダイバーシティについて語る朝食会をしたんですね。

その方は、「今、ダイバーシティをやるんだ！」と、ぎゅっと圧力をかけると、みんなそっちに向くんだけ、ちよつと緩めるとピンと戻っちゃうので、それを「形状記憶合金」と例えてらっしゃいました。いつも圧力をかけないといけない、男性に不満があるのをわかっている。「うちはやるんだ！」と、強い意志を持っていないと進まない。成功するためには強いリーダーシップと、達成可能な数値目標の提示が必要だともおっしゃっていました。

土岐 私も「クライアント」というのは、男性陣の腹に落とすときのキードと思っっています。クライアントが今後ダイバーシティを推進するので、監査業界が後からついていくのではダメでしょ、というアプローチの仕方もあると思うのです。

鹿島 現状はまだこれが戦略であるということの認識が足りません。認識を変えていくのは、相当なエネルギーがいると思っっています。

経営陣の男性の方たちも、協力するつもりがあるし、やらなきゃいけないのはわかっているのですが、リーダーシップをもって自ら進めていけるかど

うかということが、次の大きな課題だと思っています。

土岐 人間は放っておくと、自分と同様の人と一緒にやるのが楽ですよね。置かれた環境や考え方の違う人と一緒にやるというのは相当大変です。そこで、違うことに関して勉強しようと思うか、それとも違和感を抱いたままの二つに分かれますが、前者みたいに自分と違う部分を受け入れるという前向きな気持ちを持つていけば、個人も組織もすごく成長するはずなんですよね。

鹿島 組織を変えるためには、いいかどうかは別として、いろいろな人の意見や考えを、いったんは受け入れることが必要です。いろんな意見や考えの中で、何を作っていくのかを検討しないと、絶対変わらないですよ。

日本の会社は、ずっと日本人男性で仕事をやってきて、高度経済成長期はそれで成功してきた。でもこれからはいろいろな違うものを受け入れざるを得ないと思います。クライアントの社長が外国人になったときに「俺はドメスティックだから関係ない」というのは通じないと思っっているんですけど、そういう危機感がないですよ。

土岐 組織を発展させるためには、経営者だけじゃなくてみんなが、足元の課題と、先を見た課題と両方をやっていかないといけないですよ。足元の

課題に精一杯の毎日から一步脱却して、頭の片隅に余裕を残さないといけな
いですよ。今のままだと5年後も同じ状況だと思います。

女性同士のコンフリクト(摩擦)と、

「それぞれにどう説明するか？」

——女性活用という話をする、どうしても育児支援などの制度がクローズ
アップされますが、一方では独身の方もいらつしやいます。そのあたりでコン
フリクトが発生するという状況も見られると思いますが、いかがでしょうか？

鹿島 ないことはないと思いますが、ある意味、しょうがない。本音では産
休や育休、時間短縮を取ったりしている人を、「楽していいな」と思っている
独身女性もいると思います。独身だったら、そういうことがないわけで、そ
れは男性も同じで仕方がないと思うんですね。

こういう制度が定着していくと、ある時期その人が楽している見えるか
もしれないけど、それは実は違うんだということを理解してもらうことが
重要だと思うんです。

時短等を取っている人たちは、自分が信頼を得るための働きかけは自分の
責任でやっていかなきゃいけない。働けるときに一所懸命働くことは当然で

すが、現場にいる時間で信頼を勝ち得ている人は、早く帰らなくてはいけないなど本当に困っている時にも受け入れてもらえます。信頼を得ていれば本当に大変な状況であることが分かってもらえるから、人間関係も壊れないし、文句も言われない。でも、信頼を勝ち得ていない人はやはり、コンフリクトが起こることがあると思います。

だから、いつも「時短を取る側もそういう意識でやってください」、「周りの人はその点に理解を示してください」と言うのですが、先ほどお話したような点を分かっているかどうかということが、ものすごく大きなキーですね。

土岐 コンフリクトは現にあると思いますけど、鹿島さんがおっしゃったように時短などの制度を取る人のスタンスによって違うと思います。

こういう状況をすごく意識して、ものすごく罪悪感を持っている人には、「当然の権利なんだから、どんどん使いなさい」と言うべきだと思う。

逆のパターンとして、そのような制度を当たり前のように思っていて、残った仕事を周りに全部振って「私はもう保育園のお迎えがありますから。時間がないのでできません」と帰っちゃう人には、「他の人があなたの仕事をかぶっているわけだから、ちゃんと周りにも気を使いなさいよ」と言うべきで、その人の立ち位置とか、スタンスによってアドバイスを変えていかないといけないなと思っています。

要するに理解してもらってなんぼのものです。だから、周りの人とコンフリクトを起こさないように、かつ本人がつぶれないように、本人たちにはアドバイスするし、周りの人には、例えば「遊びではなく育児のために早く帰るんだから、たぶん拘束時間はあなたより長いと思いますよ」と説明しています。こういうのは制度で解決できる問題じゃないので、個別にマインドのバランスが取れるように持つていくような状況にしないといけないと思つてます。

鹿島 そうですね。だからWINDSでやっている制度説明会でも何を言うかが大切で、制度自体は読めばわかりますから。制度の運用上、使う側と使われる側両方で「制度を使うのは権利だから当然だけど、でもそれだけではないという事はわかつてね」というところを言わないといけないと思います。

責任を感じすぎてつぶれるリスクのある人については、周りから「帰る時間を言つてね。もう時間だよ」と声をかけることが必要ですが、必ずしも責任を感じる人ばかりではないということが心配です。

昇進に、男女差はあるか？

昇進させる側の意識はどうか？

—日本の会社ではいわゆるボーイズクラブ的なものが「上からの引き上げ」

が必要な昇進で大きく影響している。これに対して女性は女性上司が少ないので引き上げが少ないという意見がありますが、監査法人の中ではいかがですか。

鹿島 言葉として出てくるわけではありませんが、男性が女性を昇進させる必要があるという意識に変わってきていると感じています。

土岐 昇進のときだけ引き上げるというのではないと思います。上からの引き上げというか、育てようと思う対象に女性がどれぐらい入るかということが重要ではないでしょうか。女の人に対しても昇進させるために十分な経験を積ませるようアサインメントを配慮するなど要するにプロフェッショナルとして育てようと思う男の人が、どれぐらいいるかという論点だと思います。

確かに自分と同じような状況の人の方が育てる側もわかりやすいだけでしょうから、ボーイズクラブに深い意味はないと思います。ボーイズクラブでつるんでいる人は、飲みに誘うときに気軽に行くのは男の人が多いからと何となく男ばかりになっていて、女の方はそういう暇がないからねというぐらいの話だと思います。

ただ、そういう今まで醸成されてきた「アンオフィシャルなリレーションシップ」方式ではない方法で育てるということを提言していかないと、自然な流れでは男の人ばかりを昇進させてしまうのかもしれない。ただ男女が

対立構造になりがちですが、そこを何とかそうではないように持っていかなければと思っています。

鹿島 でも実際の評価になると難しく、「個人の評価としてそうなのか」「女性だから不利になっているのか」というのがわかりづらい。

土岐 現実として女性の方が評価において不利になっているかもしれないという状況は、結果を見ればあると思います。その結果をどう解消するかと考えると、やはり、評価も見える化・透明化して、なぜこういう評価なのかというところをちゃんと説明できるようにすると徐々に実態があらさまになってくるのではないかと思うんです。

いわゆる「ガラスの天井」はまだ女性に対してあるのか？

——昇進に絡んで、アメリカでも日本でも「ガラスの天井」があると言われてます。女性は男性以上に優秀か、男性以上に働かないと同じように昇進できないという実態に関してどのようにお考えになっていますか。

鹿島 私自身は実感としてよくわかりません。ただ、現実問題として、女

【鹿島・土岐ノート】

□ 若い女性会計士へのメッセージ

土岐 この業界では厳然と女性はマイノリティーだという現実があります。それに対して、変えていこうという波が起きており、それぞれが自分の立ち位置から前に進んで下を引っ張っていくということを地道にやっています。そのような状況を理解して、焦らず、あきらめないで仕事をしてください。

鹿島 最近の時短等をとる女性会計士は、プロとして監査法人で働くという意識を高く持ってほしいですね。サポートは必要だけど、ぬるま湯になってはいけないという自覚は持ってほしいと思います。

性はマネジャーまでは結構な比率がいるけど、シニアマネジャーになると一気に減ります。それをいま調べようと思っっていますが、それが女性だからなのかという調査は非常に難しい。評価の内容まで入っていかなければいけないのです。

ただ、さつき話に出たように、育てる対象になっっているかどうかで、結果としては昇進してくる間に、能力も違っているはずですが。監査の仕事は経験がすごく大事で、同じ法定監査でも、どのクライアントに行くかで経験の中心が全然違います。ビッグクライアントに行つてそこから発生してくるいろんな仕事ができるかとか、新しいいろいろな取引をまず最初に経験できる現場にいるかとかで経験値が全然違うわけですね。

土岐 今の日本の状況では、例えばあまり女性会計士に理解のないクライアントの場合、監査チームの人がサポートしないと「何でうちは女性の会計士さんなんですか」ってダメ出しされちゃって終わる。そこを、何でそもそも、そういうことをサポートしなきゃいけないかというところの軸で進めていかなくてはいけない。

外国みたいに数値目標で、シニアの女性の比率と同じぐらい昇進させろとかそういう強制的なやり方がありますが、私自身は、それだけではうまくいかないと思っています。数値目標だけ達成しても、思っていたものと違う結

また、私も諦めないことがとても大切だと思えます。あとは子どもがいてもいなくても同じで、100点を取ろうと思わないで、ぎりぎり合格点を取ろうと思うこと。100点の解決策を探すのがすごく大変でも合格点の解決策なら見つかることがあります。「合格点でいいや」と思うと、気持ちが楽になって前に進めるので、その目的を間違えなければ良いです。

□ 公認会計士を目指した動機

鹿島 私たちのころは、4年生大学卒業の女性は就職がとても厳しかったので、大学に入るときから、資格を取ろうと思っていました。一生働きたいという気持ちがとても強かった。

私の母は専業主婦だったので、経済力がないと自分の意思のとおりに行動できない時があるんです。そんな母を見ていて、「自分のしたいことをするためには自分が経済力を持っていなきゃいけないんだ」と強く思いました。それで何があっても、自分で一生働こうという気持ちになりました。

果になる可能性も大いにあるので。

あとは、女の人は自分のいろんなところでバランスを取らなきゃいけないと思っっているせいか、あまりチャレンジな仕事をやりたがらない傾向があります。それは悪いことではないですが、仕事を与える方としては、差別しているつもりはなくても、気を使って思いやりのつもりで、あまり大変な仕事を与えないというのがあるかもしれない。

伝えるべきことを伝えないと、周りも「どこまで、何を、どのように」サポートしてあげればいいのか分かりません。だから、女性も「今はこういう事情で行けないけど、もしこういう仕事があるんだったら、私はベビーシッターでも何でも雇ってやりますから」というように状況を言っておけばいい。お互いに知らないがゆえに変に気を使うこともないし、男の人は「これだけ気を使ってあげているのに、何で怒っているのか」みたいなことにはならないのではないかと思います。

きちんと会話をして、自分の今の状況や、やりたいことなどそれぞれの事情を個別に共有して行って、サポートしてもらったりやり方を編み出していくことが必要です。

——そうですね、しっかりコミュニケーションを取っていくことが大切ですね。鹿島さん、土岐さん、今日は非常に大切なお話をありがとうございました。

土岐 私は大学を出て外資系の銀行に就職しました。コネなしで入れるところは限られているというような非常に就職難の時代でした。

銀行の業績が厳しい時代で、また何にも手に職がなく銀行に入ってしまった、就職してすぐは気付きませんでした。出産するときに、このままでは銀行の中で生き延びていくのは厳しいかなと考え始めました。

そこでクレジットアナリストという職種をめざそうと思い、そのために3ヵ月間のアナリスト養成講座を受講しました。その中の簿記の授業に公認会計士が講師として来ていましたが、その時点で、公認会計士という職業すら知りませんでした。でもそのとき、その会計士の言った「こんなにすぐ簿記をマスターできるのなら会計士試験にチャレンジしたら？」という言葉をきっかけに勉強を始めました。退職して、出産後本格的に通信講座で勉強し始め、2年半の勉強期間を経て2次試験に合格し、子どもが2歳半になったときに、監査法人に入所しました。

外資系大手監査法人から国内系中小監査法人へ。時には悩み、時には欲張りに転職や昇進を意思決定し、運も味方につけて実現した榎本さんの道程を。

榎本 尚子



えのもと なおこ

公認会計士

仰星監査法人 パートナー

国際業務の責任者として、国際会計基準への移行支援業務及びクライアント向けおよび所内向け研修企画、所属する国際ネットワークへの対応業務、国際的な監査業務などに従事。共著に『会社経理実務辞典』（日本実業出版社）、『ケーススタディでみるIFRS』（きんざい）

Profile 88年 大学卒業／同年 監査法人朝日新和会計社国際事業本部アーサー・ヤング（現新日本有限責任監査法人）に入所／91年 公認会計士3次試験に合格／93年 監査法人芹沢会計事務所（現仰星監査法人）に入所／04年 パートナーに昇格

“自分を信じなさい”と言い聞かせながら
結婚、転職、出産、合併…の日々を愉しんでいます。

監査の業界で仕事をするようになって20年余りになります。最初に勤務したのは、大手監査法人の国際部、当時のビッグ8の日本法人である外資系の監査法人でした。外資に入所したのは、好きな英語を使って仕事がかつたからです。公認会計士として短期間でさまざまなスキルを身につけることができるということが、当時の外資系の監査法人の売りで、これが入所したもう一つの理由でした。

当然ながら仕事は忙しく、2、3年目には急速に仕事のレベルも上がっていきました。ところが、あまりにも学ばなければならぬことが多かつたため、与えられた仕事をこなすだけの精一杯の状況で、仕事からの満足感はあまり実感できていませんでした。

このころ結婚し私生活での環境の変化も加わり、忙しさと消化不良感との悪循環で次第にストレスが強くなりました。結局しばらくして、外資ではない小規模の監査法人へ転職しました。英語を日常的に必要としない環境になったので、英語を使って仕事をするという目標の達成は、当面の間先送りになりました。

自分のペースで経験を積み上げ

「お客さんの仕事を理解する」大切さを知る

転職後は二つの変化に直面しました。お客さんと所属する監査法人の違いです。前の職場でのクライアントは小規模でこれから成長しようとする若い会社を中心でしたが、新しい職場でのクライアントは、歴史が長く、大規模で組織の成熟した上場会社を中心でした。

そして職場（監査法人）も外資系から国内の小規模な事務所へと変化しました。これまでは、所属するネットワークの本部で作られている監査マニュアルに従って定められた手続を実施していました。入所して間もなかったこともあり、手続の意味をじっくり検討できていませんでした。これに対して、転職後は担当する会社ごとに手続を考えながら作っていくことが多く、そのためにお客さんの属する業界や取引の理解に時間をかけるようになりました。

転職して数年をかけて、取引の実態を理解して監査手続を構築していくというこの仕事の本質にようやく近づいたような気がします。

しばらくして、転職に続く第2の転機が訪れ、出産し母となりました。子供、特に乳児のいる生活は、まさに異次元の世界でした。それまで仕事の世界ではひたすら効率性を追求し、私生活では理屈が通り予定の立つ世界で過ごしてきました。理屈が通らず、というより満足に会話が成り立たない赤ん坊と

のやり取り、夜泣きや病気など次々と起こる初めてのことに全く対応できないままに、育児休業の8カ月は瞬く間に過ぎていきました。

周囲の協力も得て出産の翌年に何とか復職しました。欲張りな性格の私は仕事を辞めることはあまり考えず、復職はごく自然の流れのような気がしました。一度きりの人生で、何かをあきらめるということは大きな決断であり、育児をしながら仕事をするという選択よりも、どちらか一つに絞ることの方が勇気のいることのように思えました。とはいえ、仕事と育児のバランスの取り方は難しく、今でも正解というものはないのだろうと思っています。仕事と育児でバタバタと日常を過ごす中で、子供とのかかわり方はこれでいいのか、今後はどうなるのだろうという不安がいつも頭にありました。

そしてこのような時期に第3の転機が訪れました。パートナーに昇格したことと勤務していた監査法人の合併です。

紆余曲折の末に最初の希望だった

「英語を使う仕事」に出会う

前述したように育児に不安を抱えた状況でしたので、その責任を考えるとパートナー昇格にはためらいがありました。ただ、監査業界での仕事も15年になっており、そろそろ次のステップへ踏み出したいという気持ちから挑戦

してみることにしました。

予想外だったのは、私がパートナーになって1年ほどで別の監査法人と合併したことです。この時誕生した仰星監査法人に今も所属していますが、合併から2・3年間は、合併による混乱に監査業界の急激な変化が重なり仕事と家庭の両立という課題に改めて直面し、私が公認会計士としてのキャリアを考える上で最も悩んだ時期でした。両立を目指すならどちらにも100%注力することはできないのは仕方のないことでしたが、どちらからも中途半端な達成感しか得られない状況に自分の中でどうやって折り合いをつけるか、答えはなかなか見えてきませんでした。

新法人では、就学前の子供がいる女性会計士はほとんどいませんでした。同じ境遇で意見交換をすることはあまりなかったのですが、その代わり仕事を積極的に楽しんでいる仲間は大勢いました。どの人にとっても合併は大きな環境の変化であったはずですが、新しい挑戦から達成感を得るために努力をし、またその努力を評価するという良い循環が生まれていたように思います。私が、その仲間からエネルギーをもらいもう少し努力してみようという気持ちになれたのは、新しい環境に慣れてきたごく最近のことです。仕事と家庭ともに100%注力できなくても、それぞれ努力することで得られるものを少しでも増やそうとすることも大切だと思えるようになりました。むしろ、人生ではいろいろな事情で一つのこと全力で取り組める状況にならな

いことの方が多いのかもしれません。そして幸運なことに、合併後は希望した国際業務を担当することになりました。十数年を経て、当初の目標に取り組むことができるようになったことは、仕事に対する大きな原動力となりました。

自分のプロセスを大事にしていけば
道は開けるのではないか？

もう一つこの時期に私がしたことは、たくさんの本を読み、多くの人の知恵を借りて方向性を見出そうとしたことです。その中で一つ、私の心に残ったフレーズがありました。それが「TRUST YOURSELF」。自分を信じなさいということでした。これを私流に次のように解釈しています。何事においても、楽しいと感じられるかどうかは自分が納得する方法で取り組めるかどうかにかかっており、そのプロセスは自分に固有のものであります。そのプロセスがたとえ非効率であっても、自信を持って行うことで自分にしかない満足が得られるのだと。

激動の時代は続きビジネスはますます厳しくなりそうです。一方で最近では子育てをもっと楽しみ、自分も子供とともに成長していきたいという思いも以前より強くなっています。迷ったときこそ自分を信じて、周りの様々な人々とのつながりを楽しみながら、挑戦し続けたいと思っています。

【榎本ノート】

□ 育児中の方へのアドバイス

子供が3歳ぐらまではやはり体力勝負です。よくドラマなどで描かれているように、仕事が終わると保育園へダッシュ、家へ帰れば、子供をあやしなから食事、洗濯、明日の支度であっという間に一日が終わり、座ってお茶を飲む暇もない日々です。私も子供が幼かった数年間は、夫や両親、義父母などあらゆる人の手を借りて、時間のなさを埋め合いました。幸い夫が「手伝う」というスタンスではなく「主体的に育児に参加する」人だということとを、この時になって知りました。夫婦で忘年会の予定が重なってしまい、子連れで職場の忘年会に参加したこともありました。育児のために周囲に迷惑をかけないようにとは思っていましたが、時には周りの助けを借りることも必要です。一方的な甘えにならないように、普段から理解を求める努力も必要です。

監査法人とは 1

監査法人とは、5名以上の者によって設立され、原則として公認会計士を「社員」とする法人です。「社員」は「パートナー」とも呼ばれ、監査報告書にサインをするほか、法人の意思決定に参画します。なお、訴訟などにより監査法人の財産を使って債務を完済することができない事態が生じたときには、各社員は連帯してその弁済の責任を負うとされるなど、社員は重い責務を負っています。また、監査業務は男女の差が少ない業務であると考え人は監査法人に多数を占めていますが、日本の監査法人内では、女性「社員(パートナー)」の数はまだまだ少ないのが現状です。

監査法人とは 2

2009年12月28日現在、日本には195の監査法人があります(日本公認会計士協会ホームページより)。上場会社の監査のほとんどがいわゆるビッグ4(四大監査法人)の寡占下にあるため、多くの中堅・小規模の監査法人は、株式公開業務や上場会社以外の監査のほか、会計アドバイザーや税務コンサルティング等に特化するなど、各個人の実力を活かした特色あるサービスを提供しています。

監査法人の統合

監査法人の歴史は監査法人間の合併・統合の歴史でもあります。バブル時代にはビッグ8と言われていた日本の大手監査法人は2010年3月末現在4つ(あずさ、新日本、トーマツ、あらた)となっています。うち、新日本有限責任監査法人は、太田昭和監査法人とセンチュリー監査法人の合併によりできた法人です。また、過去にビッグ8の一つであった中央監査法人(2000年に青山監査法人と合併し、中央青山監査法人)は、カネボウの粉飾決算問題等により、2006年にあらた監査法人、京都監査法人、みすず監査法人などの監査法人に分離しました。うち、みすず監査法人は旧中央青山監査法人の法人格を引き継ぎ、金融庁の業務停止処分を受けた後も存続を試みたのですが、日興コーディアルグループの会計処理問題などの影響により、2007年に解散を決定するに至りました。



その1～会計士と電卓。その切っても切れない関係

公認会計士がいったん左手で電卓を押す（右手にはペン）や、一般人はその壮絶な早打ちに腰を抜かす。ヘビーユーズに耐えうる商売道具には皆さん一家言お持ちです。

カシオ派

●ほかの電卓を使ったことがないので、比較はできませんが、カシオの電卓は押しやすいようにいい感じにボタンの真ん中が指型にへこんでいて使いやすいです。（20代/監査法人勤務）

●簿記2級まではカード電卓（8桁）でしたが、受験学校で「電卓を買いましょう」と言われ、当時は5,000円もしたのでびっくり。そのとき買ったのがカシオの電卓で、以後ずっとカシオです。（30代/監査法人マネジャー）

シャープ派

●カシオの「0」キーのすぐ上に「AC」キーがある配列が気に食わずシャープのまま。「0」を押す機会は多いので、キーを押し間違い、計算の途中で全て消えてしまわないか心配で…。

（20代/監査法人勤務）

●人に借りた配列が違う電卓で、間違っ「AC」を何度か押してイラッとしたことがあるのでこれからもシャープ。受験初年度に買って以来15年、電卓だけが私の会計士人生と共に…。

（30代/監査法人マネジャー）

●受験生時代、初めはTAC（受験専門学校）で買った「0」が一つの電卓でしたが、液晶を

割ってしまい、もう1つ買った頃には「00」のキーが付いてて。これが便利！

（40代/会計事務所経営）

要するに「キーの並びがメーカーによって違い、ブラインドタッチするので違うメーカーのを使うと打ち間違ったりする」というのが両派に別分かれる理由みたい。でも最近はパソコンが普及して、桁数の多い計算が楽になったそうです。そしてベテランになるとこんな人も…

●受験時代からシャープを使っていたが、買い替えにあたり安いキャノンに変更しました。しかしながら、立場が上になるにつれて電卓で大量に計算することもなくなり、今は持って行き忘れることもしばしば…。

（40代/監査法人パートナー）



じょせいかいけいしにじゅうにん じんせい ちゅうかんけっさんしょ
女性会計士20人 人生の中間決算書

2011年2月25日 第1刷発行

編者 にほんこうにんかいかいけいしきょうかいきんぎかい 日本公認会計士協会近畿会 じょせいかいけいしいんかい 女性会計士委員会
発行人 小川泰彦
発行所 日本公認会計士協会近畿会
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-4-11 クラボウアネックスビル2F
電話: 06-6271-0400 FAX: 06-6271-0415
<https://www.jicpa-kinkei.jp>
kinkikai@jicpa-kinkei.jp
発売所 株式会社 清文社
〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北2-6 大和南森町ビル
電話: 06-6135-4050 FAX: 06-6135-4059
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-6-6 MIFビル
電話: 03-6273-7946 FAX: 03-3518-0299
<http://www.skattsei.co.jp>

女性会計士委員会では主に以下の活動を行っております。

1. 異業種女性団体との交流に関する事項
2. 働く女性問題の研究に関する事項
3. 外国における女性会計士の実態の調査研究に関する事項

編集メンバー

会長 小川泰彦
担当副会長 高濱 滋
委員長 宮口亜希・栗原貴子(前委員長)
副委員長 堤あづさ・岡本善英
委員 伊加井真弓・玉置寿子・北山久恵・林紀美代・種田ゆみこ・俣野朋子・
南里美・吉川和美・谷村尚子・池田緑・播磨宏美・野瀬裕子
サポーター 清水敬輔
監修 日本公認会計士協会
編集協力 株式会社140B
装幀 疋田彩子(Style Inc.)
イラスト ハンジリョオ
印刷・製本 図書印刷株式会社

©The Japanese Institute of Certified Public Accountants KINKI Chapter 2011, Printed in Japan
ISBN978-4-433-48100-1

乱丁・落丁本はご面倒ですが、発行所負担にてお取り替えいたします。
この本についてのお問い合わせは日本公認会計士協会近畿会までをお願いいたします。
本書の無断複写複製(コピー)は著作権法上の例外を除き禁じられています。
定価はカバーに表示してあります。

『女性会計士20人 人生の中間決算書』(上)

<http://p.booklog.jp/book/73241>

著者 : kaikeishi

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/kaikeishi/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/73241>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/73241>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブックログ